

高洲地区学校適正配置（案）

2019.3.23

千葉市教育委員会 教育総務部 企画課

1 高洲地区学校適正配置（案）の基本方針

- ・子どもの教育環境の改善を中心に適正配置を行う。
- ・学校が果たす地域の役割を考え、「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえた適正配置を行う。
- ・児童生徒数推計を基礎に、10年先、15年先を見据えた高洲地区の学校の在り方を考える。
- ・保護者や地域の要望を十分に聞き、統合に向けて円滑な準備ができるようにする。
- ・高洲第一中学校と高洲第二中学校を統合し、統合校の設置場所を高洲第一中学校とする。最短の場合2019年度に「学校適正配置の要望書」提出、2021年度統合新設校が開校できるように教育環境を整備する。

2 統合した場合の児童生徒数推計（平成30年度算出推計）

高洲第一中学校（利用可能普通教室数 25）

年度	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
生徒数	354 ^⑪	355 ^⑪	337 ^⑩
3年生	118 ^④	128 ^④	118 ^④
2年生	124 ^④	116 ^④	113 ^③
1年生	112 ^③	111 ^③	106 ^③

高洲第二中学校（利用可能普通教室数 12）

年度	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
生徒数	123 ^⑤	116 ^⑤	102 ^④
3年生	49 ^②	41 ^②	33 ^①
2年生	41 ^②	33 ^①	42 ^②
1年生	33 ^①	42 ^②	27 ^①



統合中学校（高洲一中と高洲二中）

年度	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	2024 (H36)
生徒数	454 ^⑭	430 ^⑬	429 ^⑬	414 ^⑫
3年生	158 ^⑤	136 ^④	160 ^⑤	134 ^④
2年生	136 ^④	160 ^⑤	134 ^④	135 ^④
1年生	160 ^⑤	134 ^④	135 ^④	145 ^④

3 統合スケジュール（最短の例）

統合校名	統合前の学校名	平成30年度 2018	平成31年度 2019	平成32年度 2020	平成33年度 2021	平成34年度 2022	平成35年度 2023
統合校	高洲一中	通常使用	地元代表協議会 要望書提出	通常使用	統合 簡易な修繕	統合校の校舎として使用	
	高洲二中	通常使用		通常使用		跡施設	

- ・2021年度に、高洲一中で統合する。高洲一中は、耐震工事やトイレの改修がすでに施されており、大規模な改修は行わない。

4 真砂一丁目の扱いについて

真砂一丁目に居住の生徒が、高洲第一中学校に通学する場合に、約2kmの通学距離となることから、地域から通学の負担軽減を求められている。そのため、真砂一丁目地区を、真砂中学校への学区外承認地域にすることについて、地元代表協議会で協議する。

（参考）真砂中学校（利用可能普通教室数 15）

年度	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	2024 (H36)
生徒数	478 ^⑭	483 ^⑭	499 ^⑮	481 ^⑮
3年生	145 ^④	169 ^⑤	171 ^⑤	157 ^⑤
2年生	169 ^⑤	164 ^⑤	157 ^⑤	171 ^⑤
1年生	164 ^⑤	150 ^④	171 ^⑤	153 ^⑤

5 その他

- ・「学校適正配置の要望書」が提出された後、統合に向けて生徒に負担がないように交流活動を開始する。部活動についても、できるだけ早く交流ができるように環境を整備する。
- ・新設校を開校するという観点から、学校名、校歌、校章を新たなものについて検討する。
- ・制服、体操服を変更することについて、検討する。
- ・通学路の変更に伴い、統合校安全指導員を配置する。
- ・生徒の心理的な側面に配慮し、統合新設校には、統合前の職員をバランスよく配置する。